

with Dam ★ Night in Kyoto 開催報告

1. 開催概要

活性化推進小委員会近畿・中部ブロックでは、昨年12月に京都大学で土木学会関西支部と共催で、「どぼくカフェ・with Dam★Night in Kansai カタカナドボクへの誘い/ダムってなんやねん？」と銘打ったイベントを実施しました。今年度は、国際大ダム会議が日本で初めて京都で開催されることを期に、一般の方々にもダムという構造物が持つ大きな役割や魅力に触れて頂く機会が提供できればということで、「with dam ★night in Kyoto」を企画・開催しました。

★☆☆ICOLD 2012 kyoto サイドイベント☆☆☆

with Dam ★ Night in Kyoto

★そうだ、ダム行こう！

ダムの魅力を体感してみませんか？☆

We are dam engineers, fans and lovers

2. イベント実施日時、場所

- ・日 時：平成24年6月3日（日）11:00～19:00
- ・会 場：京都駅ビル・イベントスペース（インフォメーション前）

☆世界のダム技術者のサミットが始まります☆
★国際大ダム会議京都大会★ICOLD 2012 Kyoto★2012/6/2～6/8★国立京都国際会館★

★☆☆ICOLD 2012 Kyoto サイドイベント☆☆☆

with Dam ★ Night in Kyoto

★そうだ、ダム行こう！

ダムの魅力を体感してみませんか？☆

We are dam engineers, fans and lovers

・日 時：平成24年6月3日（日）11:00～19:00
・会 場：京都駅ビル・イベントスペース（インフォメーション前）
・出演者：ダム工学会・大ダム会議関係者、行政・大学・民間のダムエンジニア、ダムファン等
・プログラム：トークショー、映像放映、ダムカード写真展、ダム関連各種資料閲覧・配布

プログラム	タイトル	メインスピーカー	時 間
トークショー-1	ダムの魅力とは？	藤原 雅紀 (F&E社/フタダカ)	12:00～13:00
トークショー-2	ダムの仕事	渡 邊 (ダム愛好会)	14:00～15:00
トークショー-3	水力発電が日本を救う	岡本 隆博 (ダム工学会副会長)	16:00～17:00
メイントークショー	世界のダムの魅力を語る	角 哲也 (京都大学教授)	18:00～19:00
映像放映	11:00～12:00 ①13:00～14:00 ②15:00～16:00 ③17:00～18:00		

・入場無料
・主 催：一般社団法人 ダム工学会 企画運営委員会
活性化推進小委員会 近畿・中部ブロック幹事会

パンフレット（表面）

ダム工学会とは？・・・「with dam ★ night in Kyoto」開催趣意

ダムは、治水・利水に亘り、人間の社会的・経済的活動を支える重要な社会基盤施設であるとともに、美しい水辺環境を創出し、人々の心に安らぎを与えるという機能を兼ね備えています。ダムの設計・施工・管理についての技術発展を期して形成された学際であるダム工学とは、従来、総合工学と呼ばれてきたように、関係する各学問分野の総合技術として研究が進められてきました。すなわち、応用力学、構造工学、耐震工学、耐腐蝕工学、水理学、水文学、河川工学、発電水力学、衛生工学、土質工学、基礎工学、岩盤力学、計測工学、土木材料学、コンクリート工学、農業土木学、応用地質学、機械工学、電気通信工学等の総合工学として発展してきたわけですが、ダムが現在直面している数多くの課題に対応するためには、これらの研究のより効率的な推進及び総合化を図ることが重要であり、ダム技術を有機的に統合する新しい学際体系をより一層発展・充実させる共通の場の設定が必要と考へ、「ダム工学会」が創設されました。（ダム工学会は、平成5年9月10日付けで、日本学術会議に基づく学術研究団体に認められ、平成6年5月10日の通常総会をもって、本会の名称を「ダム工学会」と改めました。）

ダム工学会では、国内における関連学協会ともより、国際的な学協会及び研究機構との連携も図っていますが、今回、世界のダム技術者が集い技術討議を行う国際大ダム会議が下記に示すように初めて日本（京都）で開催されることを期に、一般の方々にもダムという構造物が持つ大きな役割や魅力に触れて頂く機会が提供できればということで、「with dam ★night in Kyoto」を企画しました。

ダムという構造物が生み出す大きな役割を知って頂くとともに、その圧倒的なスケールから受ける感動を是非体感して下さい。

JSDE
ダム工学会
〒600-8501 京都府京都市下京区上田町1-1-1 国立京都国際会館
TEL: 075-753-5111 FAX: 075-753-5112
E-MAIL: info@www.jsde.jp

「with dam ★ night in Kyoto」会場案内
京都駅ビル・イベントスペース（インフォメーション前）

国際大ダム会議 第80回年次例会及び第24回大会 開催概要

1. 会議の名称： 和文名 国際大ダム会議第80回年次例会及び第24回大会
英文名 80th Annual Meeting and 24th Congress
International Commission on Large Dams
2. 主 催： 和文名 国際大ダム会議第80回年次例会及び第24回大会 組織委員会
英文名 Organizing Committee for 80th Annual Meeting and 24th Congress
International Commission on Large Dams
3. 会 期： 平成24年（2012年）6月2日（土）～8日（金）（7日間）
第80回国際大ダム会議年次例会；技術見学会；年次例会総会；国際シンポジウム
第24回国際大ダム会議大会；課題討議（3年に1回の開催）
4. 開催場所： 国立京都国際会館（主会場）
京都ホテルオークラ（第2会場）
5. 参加者： 世界95ヶ国から約1200名の参加を想定
6. 事務局： 国際大ダム会議京都大会組織委員会
(社団法人、日本ダム会議内)

(なお、この会議に出席するためには事前登録が必要であり、登録のない方は会場に入れません。)

パンフレット（裏面）

3. イベント内容

イベント内容としては、トークショー、映像放映、ダム写真展、ダム関連各種資料閲覧・配布を実施しました。

4. トークショー（4回実施）

①トークショー1（12:00～13:00）

■タイトル：ダムの魅力とは？

■スピーカー：萩原雅紀（ダムライター／フォトグラファー） 中村靖治（中村事務所）
夜雀（ダム愛好家）

■内容：日本のダムマニアを代表して、萩原氏と夜雀さんが登場。最初にダムの型式説明とゲートの説明があり、そのあと「東西対抗ステキなダムトークバトル」へ。さまざまなダムの魅力を紹介するために、黒部川～天竜川あたりを境に東西に分かれて、お互いのお気に入りのそれぞれがカッコいいと思うダム写真で真っ向勝負しました。二人の対決に中村靖治氏から鋭い解説が入ると、観客の方々の顔色が変わる場面も。専門家の解説を入れながらの対決に、観客の方々には、いわゆるダムマニアだけのトークショーとは一味ちがう満足感が得られたと思います。



左から、夜雀さん、萩原さん、中村氏

②トークショー2（14:00～15:00）

■タイトル：ダムの仕事

■スピーカー：夜雀（ダム愛好家） 中村靖治（中村事務所）
萩原雅紀（ダムライター／フォトグラファー）

■内容：続いては、夜雀さんから「ダムの仕事」について、ダムに纏わる数々のエピソードやダムと勘違いされるダムの紹介をしながら、夜雀さん流のトークが始まりました。夜雀さんの説明にマニアの立場で萩原氏が、また専門家の立場でアドバイザーとして参加の中村靖治氏がコメントを被せていきました。途中で、中村靖治氏にもスイッチが入り、立ち上がってモニターを示しながら熱弁を振るう場面も。詳しい洪水調節時のダムの仕事などをきっちり説明してくれました。



左から、萩原さん、夜雀さん、中村氏



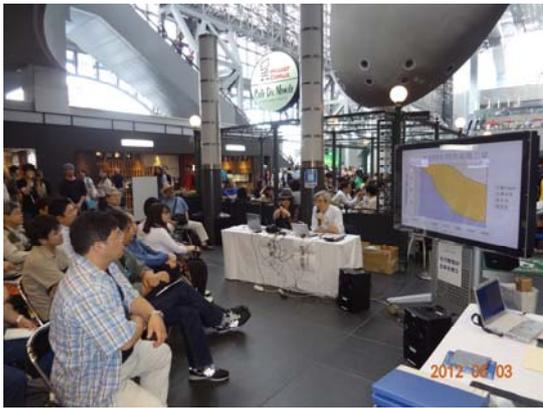
立ち上がって熱弁を振るう中村氏

③トークショー3（16:00～17:00）

■タイトル：水力発電が日本を救う

■スピーカー：岡本政明（ダム工学会副会長） 夜雀（ダム愛好家）

■内容：「岡本政明ダム工学会副会長が先生に、夜雀さんと観客が生徒になって、水力発電の講義を受ける。」そんなシチュエーションでトークが始まりました。「水力発電は、我が国の自然環境を利用した、再生可能なクリーンで安全な国産エネルギーであり、電力のベース供給力として活用しています。水力発電はこういう仕組みで電気をつくってるんですよ。揚水発電はこういうものなんですよ。」という説明に、生徒たちは、真剣な眼差しでモニターを食い入るように見つめてくれました。同時刻に駅ビル内で開催されていた高校のプラスチック大会の爆音にも負けず続行してくれた先生の真剣な講義と、真摯に耳を傾けてくれた生徒の方々に感謝です。



左から、夜雀さん、岡本副会長



準備した座席はもう一杯です

④メイントークショー（18:00～19:00）

■タイトル：世界のダムの魅力語る

■スピーカー：

- ・角 哲也（京都大学防災研究所教授）
- ・Jinsheng JIA（国際大ダム会議総裁）
- ・Anton Schleiss（スイス大ダム会議会長，スイス連邦工科大学ローザンヌ校教授）
- ・George Annandale（米国のダムエンジニア，コンサルタント Golder Associates 社長）
- ・坂本忠彦（日本大ダム会議会長）

■内容：国際大ダム会議の Jia 総裁と日本大ダム会議の坂本会長に加えて、スイス大ダム会議の Schleiss 会長とアメリカのダムエンジニア Annandale 氏をゲストに迎え、中国、日本、スイス、アメリカのそれぞれのダムの特徴、思い出深いダムについてその魅力を語って頂きました。今回のイベントのメインホストである角哲也京都大学教授からゲストの方々が紹介されたあと、まず、Jia 総裁からは中国の歴史的なダムとして仏子嶺ダム他の紹介が、また、坂本会長からは三国川ダム他の紹介が、そして Schleiss 会長からはスイス空軍が撮影したダム写真など多数のきれいなダムの紹介が、また、Annandale 氏からは会場がどよめくアメリカの超個性的なダムが盛り沢山に紹介されました。英語での説明は、角教授がそれを訳して観客に伝えてくれました。



4名のゲストが登場



角教授がゲストを紹介。ダム工学会田中会長も出席。



観客席は超満員。立ち見の人も。



ICOLD Jia 総裁と JCOLD 坂本会長の講演



スイス大ダム会議の Schleiss 会長の講演



アメリカのダムエンジニア Annandale 氏の講演

5. 映像放映

映像放映は、萩原雅紀氏、近畿地方整備局、水資源機構関西支社、関西電力等から貴重な映像の提供協力を頂き、オープニングからフィナーレまで5回実施しました。

主な放映映像は下記のとおり。

①11:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・オープニング (ICOLD 2012 kyoto と with dam★night in Kyoto) 【作：萩原雅紀】 ・天ヶ瀬ダム建設工事記録 【提供：近畿地方整備局】 ・天ヶ瀬ダムクレストゲート放流試験の映像 【提供：近畿地方整備局】
②13:00~14:00	<ul style="list-style-type: none"> ・室生ダムの紹介 【提供：水資源機構関西支社】 ・ようこそ大滝ダムへ 【提供：近畿地方整備局】 ・大滝ダムの試験堪水時放流映像 【提供：近畿地方整備局】
③15:00~16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・黒部ダム建設記録 【提供：関西電力】 ・奥吉野発電所の紹介 【提供：関西電力】
④17:00~18:00	<ul style="list-style-type: none"> ・中国ほか、諸外国のダムの紹介 【提供：角哲也京都大学教授】 ・天ヶ瀬ダム建設工事記録 【提供：近畿地方整備局】
⑤19:00~	<ul style="list-style-type: none"> ・フィナーレ (ICOLD 2012 kyoto と with dam★night in Kyoto) 【作：萩原雅紀】



オープニングは萩原氏作成のPVから



天ヶ瀬ダム建設工事記録に見入る観客

6. ダム写真展

萩原雅紀氏、近畿地方整備局のご協力により、下記のとおりダム写真展を実施しました。

①ダム魅力満載写真展	<p>感動のダム写真 29 枚を紹介 (日吉ダム、黒部ダム、奈良俣ダム、志津見ダム、長井ダム、坂本ダム、二川ダム、滝沢ダム、本庄ダム、albigna Dam等) 【提供：萩原雅紀】</p>
②ダムカード写真展	<p>近畿圏内のダムカード 62 枚をすべて紹介 【提供：近畿地方整備局】</p>



萩原氏提供のダム写真の数々



萩原氏提供のダム写真の数々



近畿地区 62 ダムのダムカード



ダムカードに見入る観客の人々

7. ダム関連各種資料閲覧・配布

ダムカード、ダム関係書籍等の閲覧、各種パンフレット等の配布を行いました。

①閲覧資料	ダムカード、ダム関係書籍数点、ダム関係音楽 CD
②配付資料	各種ダム関連団体・イベント・書籍等のパンフレット、ダムの各部名称説明資料等



ダムカード、各種書籍、パンフレット等を展示

8. まとめ

主催者側のコメントとしては不適當かもしれませんが、京都駅の構内での開催というある意味「無謀なイベント」であり、開催前日まで果たしてどれだけの人が足をとめてくれるのか心配の毎日でした。

当日朝8時前から会場設営が始まり、萩原氏の写真、ダムカードがボードに張られていくうちに、その時点ですでに写真に見入る人がポツポツと現れ、タイトルサインボードが入口に立てられた時には、すでに多くの人が開会を待ちわびる状況になっていました。

with Dam ★ Night in Kyoto は、萩原氏の手でこの日のために作成されたPVで華々しく幕を開け、歴史と重みを感じる天ヶ瀬ダム建設工事の映像が流れ、トークショーが始まった頃には、準備した30席の椅子はすでに埋まり、時間の経過とともに、観客はどんどん増えて行きました。トークショーを楽しそうに聞いている人、興味深そうに映像に見入っている人、近所のダムをダムカードで探している人、こんな本があるんやと少し驚きながら書籍を手にする人、ダムカードを手になニコニコ顔の子供たち、ダムって凄いですねといきなり話しかけて来る人、人、人…。まさにダムが本来持っているパワーに、皆が圧倒された一日でした。

述べ人数どれくらいの人々がこのイベントに参加してくれたのか分かりませんが、国際都市京都、日本で最初に水力発電所が出来た京都、そして今年世界のダム技術者が集った京都で、多くの人々にダムの魅力と底力を紹介することができた、そんなイベントだったと思います。

このような、イベントを企画できたことを誇りに思いますし、今後ともまた色々な場所で with Dam ★ Night を企画して行きたいと思います。

最後に、このイベントに参加して頂いたスピーカーの方々、ゲストの方々、各種資料を提供して頂いた関係機関各位等に心から感謝致します。



会場入口のタイトルサインボード